特261
579

始

特261
579

萬古仰

天皇

紀元二千六百年
二月十一日佳節日

木翁五
謹書

題字　栗本勇之助氏

官幣大社氣比神宮由緒略記

祭神

本　宮　伊奢沙別命、帶仲津彦命（仲哀天皇）、息長帶姫命（神功皇后）、東殿宮　日本武命、總社宮　譽田別命（應神天皇）、平殿宮　玉姫命、西殿宮　武内宿禰命

右七社の祭神は一社毎に官幣大社の奉幣に預る、誠に天下無双の奉齋なり。

由緒

氣比神宮は古く北陸道總鎮守越前國一ノ宮として、其名天下に著れ、上下の崇敬篤く古来屡々神異ありしを以て其都度勅使奉幣の事ありき、延喜式には氣比神社七座並名神大社とあり、寛平五年菅原道眞公勅使として參向せる時の記録には神階正一位勲一等とある。明治二十八年一月官幣大社に列し、同年三月神宮號宣下の御沙汰を拜す。

御社領についての初見は持統天皇紀增封の記事なれど、爾来增封寄進相踵ぎ源平時代には北陸道七國に亘り尨大なる地域を占め優に百萬石を領したりと傳へられ、延元元年金崎戰爭後も尚よく二十四萬石を保有したりしが、元龜元年田織氏のために悉く沒收せられ、慶長八年福井城主結城秀康公百石を寄進し社領復活したり。

謹みて按ずるに伊奢沙別命は又御食津大神と稱へ奉り、太古より此池に御鎮座

になり海陸殖産興業に將又民生守護に絶大の神德を垂れ給ひ、又殖産の神、航海の神、武德の神として靈顯著しく神威遠く國の内外に及べり、又一說に此命は大陸より渡來し大陸經營に神蹟を垂れ給へりと云ふ。

帶仲津彦命（仲哀天皇）は御即位後二年二月皇后及武内宿禰大臣以下百官を從へ笥飯宮に行幸し給ひ、神幣として兵器を奉り當時第一の國務たりし九州の熊襲鎭定、及豫てより我國に禮を欠きし三韓の征伐につき軍議を起し、且御祈願あらせられた。又天皇は深く此地を愛慕し給ひ、朕八州を巡見して後宮居を此地に作り永居せんと欲すと宣せらる。此に緣り三月六日御誓祭を行ふ。

息長帶姫命（神功皇后）神宮舊記によると同八年三月勅により香椎より御妹玉姫命（豐姫又は淀姫）及武内大臣以下を從へ再び神宮に御參拜兵器を獻り、重ねて三韓征伐の事を祈願給ひ、種々の神驗を蒙られ遂に彼の大業を完了し給へり。此時御發航の軍裝は今に傳へられ例年七月二十二日總參祭と稱し敦賀灣に海上神事が行はれる。

譽田別命（應神天皇）は世に八幡大神と崇め奉る大神にして胎中征韓に從軍遊ばされ、神功皇后攝政十三年二月武内大臣を從へ氣比大神を拜祭し給ふ。蓋し三韓征定についての報賽のためならん、此時大神と命と御名を易へ給ふこと古事記に見え、其に緣りて三月八日御名易祭あり。

推古天皇の御代以來屢々御神托ありしにより文武天皇大寶二年に至り勅して宮殿を修營し、九月四日　仲哀天皇以下三韓征伐御從軍の五神及天皇の御父に坐し不逞の徒討伐のため西走東奔軍事に御活動遊ばされし日本武命を併せ奉齋せしめ給ふ、是に因り例年九月四日例祭を執行す。

以上七柱の神を今の世に氣比大神と稱へ奉り現下の時局に祈請するもの極めて多く殊に御祭神の御系統御神德御事蹟に因み大陸開發に從事するもの並に國策的事業に關與するものゝ尊信頗る厚し。

攝末社

攝社	境内五社	其中式内四社
末社	境内十社	其中式内社一社
攝社	境外五社	全部式内社

表紙說明　**敦賀港古圖**

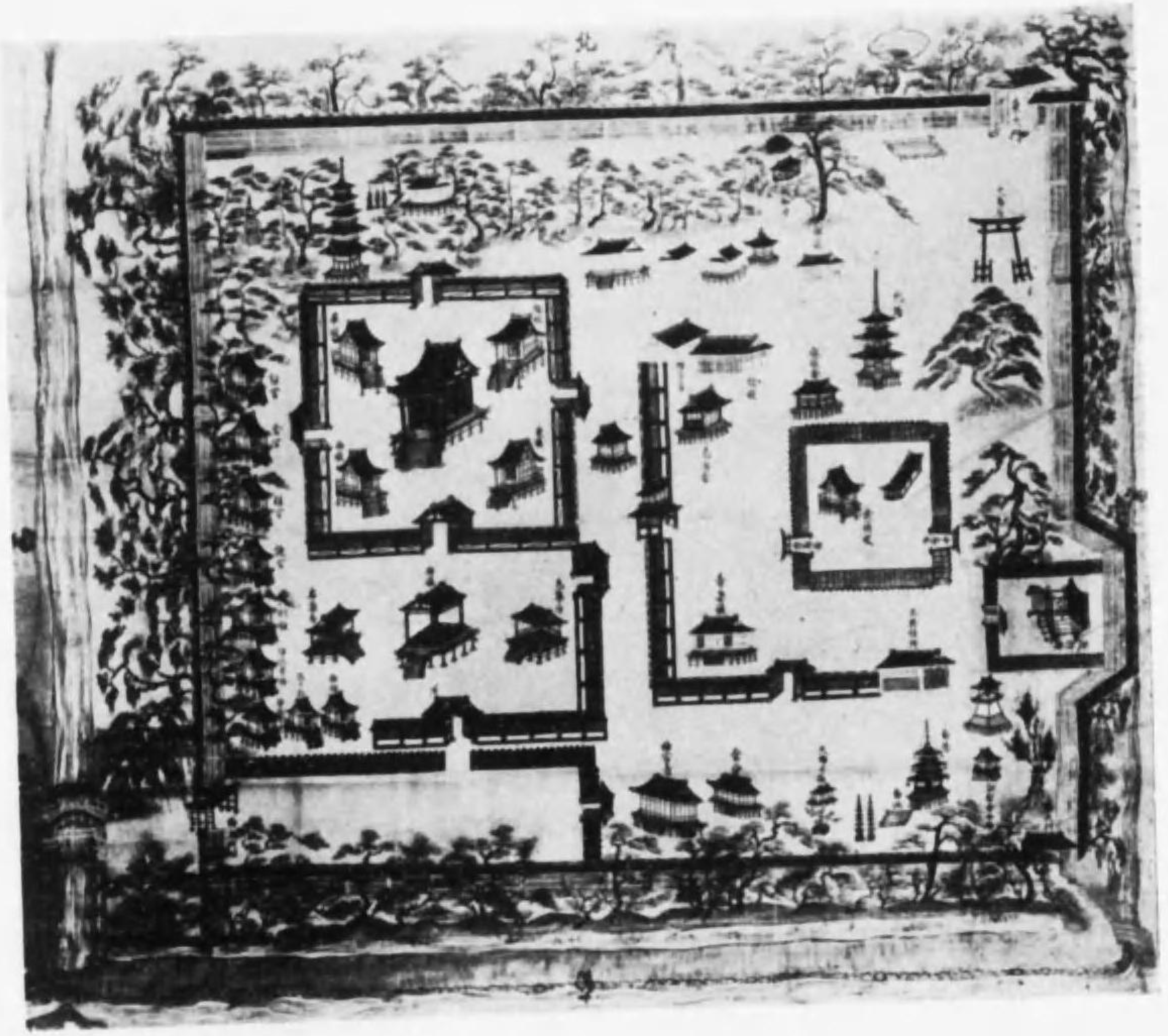
嘉永四年敦賀寄港の全圖、廻漕業者より氣比神宮大前に奉納せるものにして往時敦賀港が海運の中心たりしを物語る資料たり。

裏表紙說明　**國寶一遍上人繪傳ノ一部**（神戸眞光寺藏）

一遍即ち時宗二世　遊行上人諸國廻歷の途次、正安三年（一、九六一）氣比神宮に參拜し其徒と共に當時裏參道たりし西道路を改修す。此の緣により今に至るも歷代の時宗管長來錫の砌り古式によりお砂持行事を奉仕す。

氣比神宮古圖

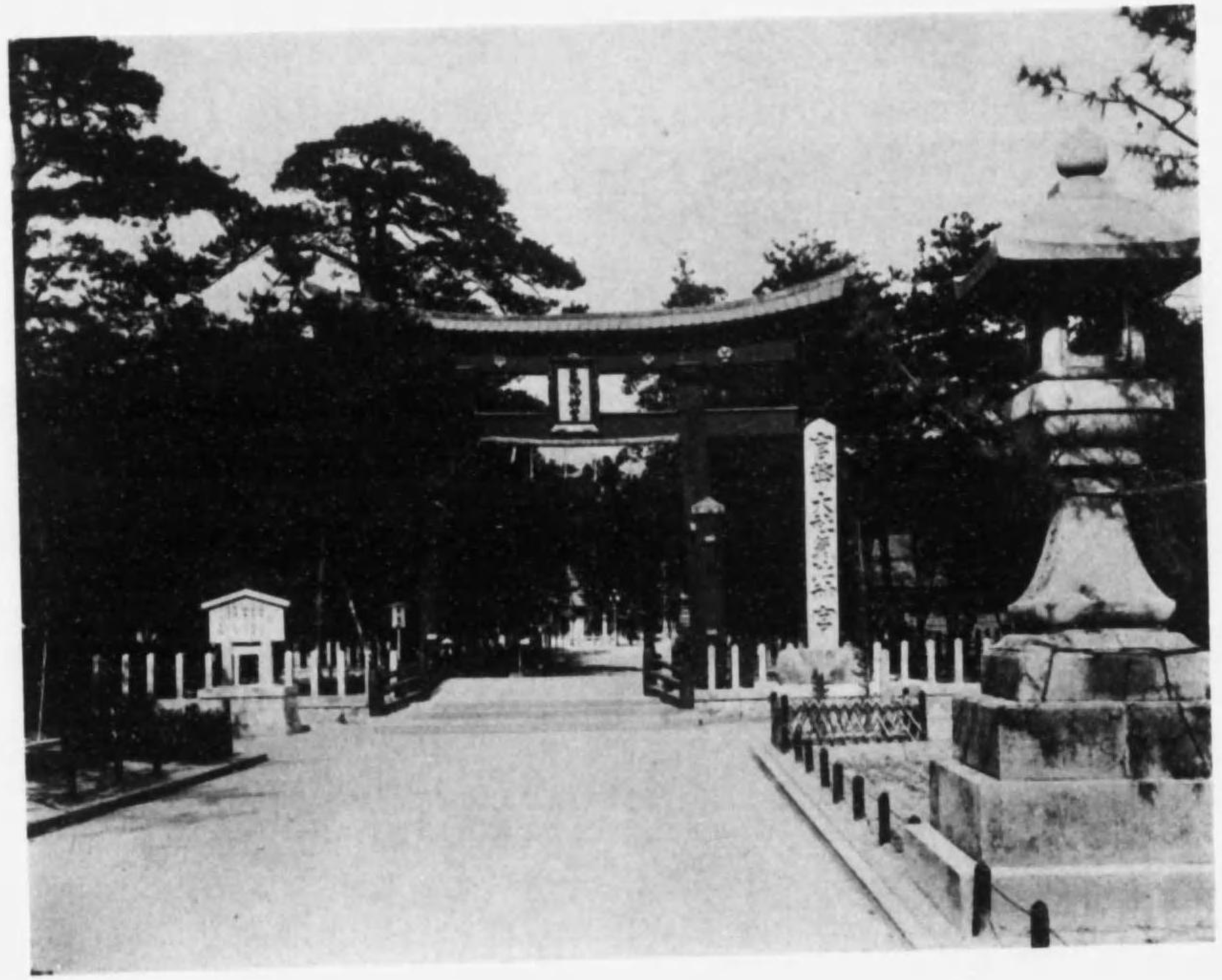
時代不詳なれど全國に魁け神宮寺を創建したるは靈龜元年(一、三七五)にして延元元年(一、九九七)及元龜元年(二、二三〇)兩度の戰禍に殿宇炎上し其後神宮寺のこと見えざれば、本圖は其の間のものなるべし。



氣比神宮古圖

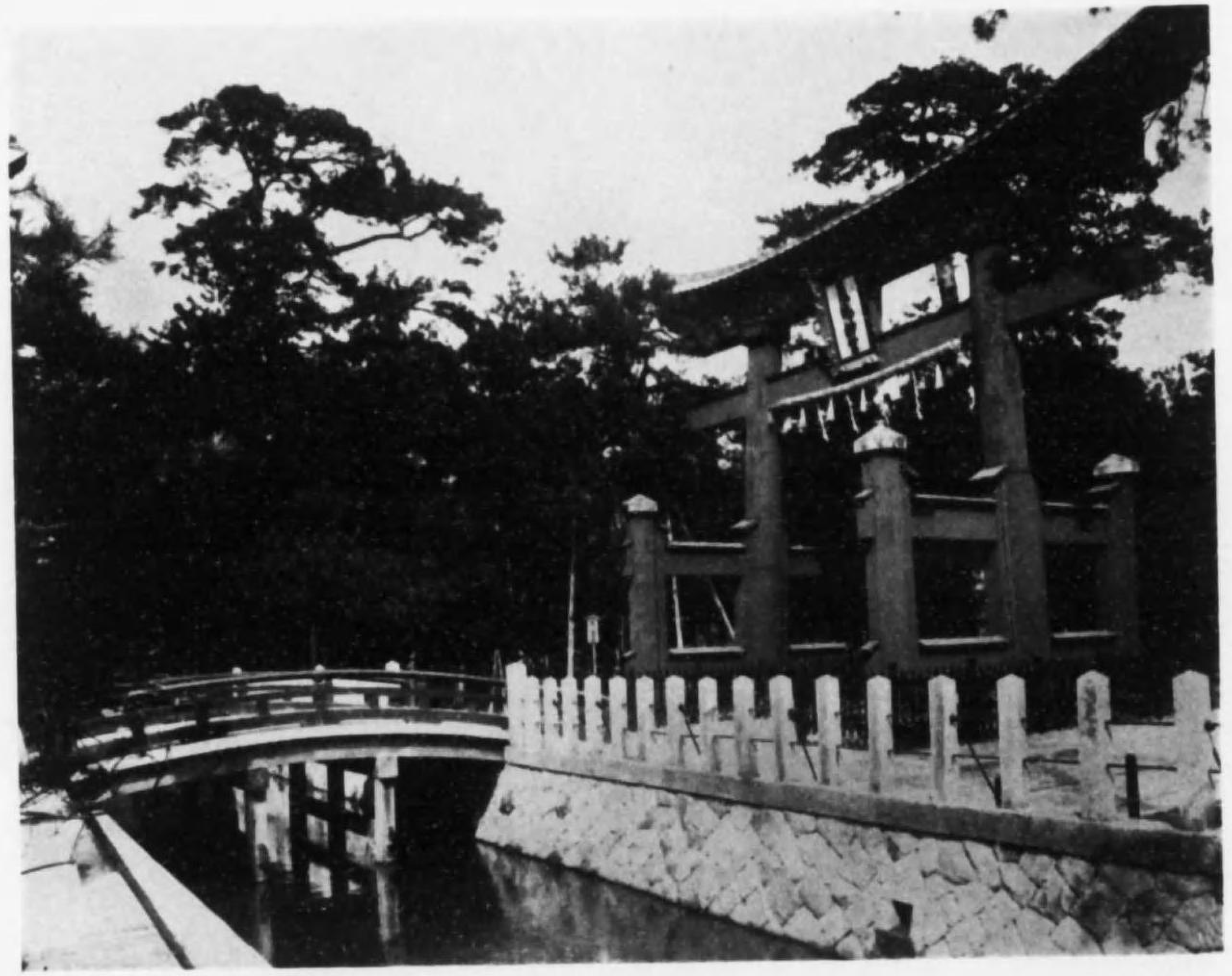
表参道正面

從來大鳥居脇まで民家及び縣道縱横に迫れるを、最近土地を買收整理の上、水路を變更、神橋を架設し昭和十三年十二月完成す。



大鳥居

高さ三十尺餘、下部柱眞々二十四尺五寸餘、木造本漆朱塗り、正保二年(二、三〇五)舊神領地佐渡國より寄進せる用材樫樹を以て建立、明治三十四年國寶に指定さる。細部に多くの特徴を有し木造鳥居の中最古の國寶建造物なり。



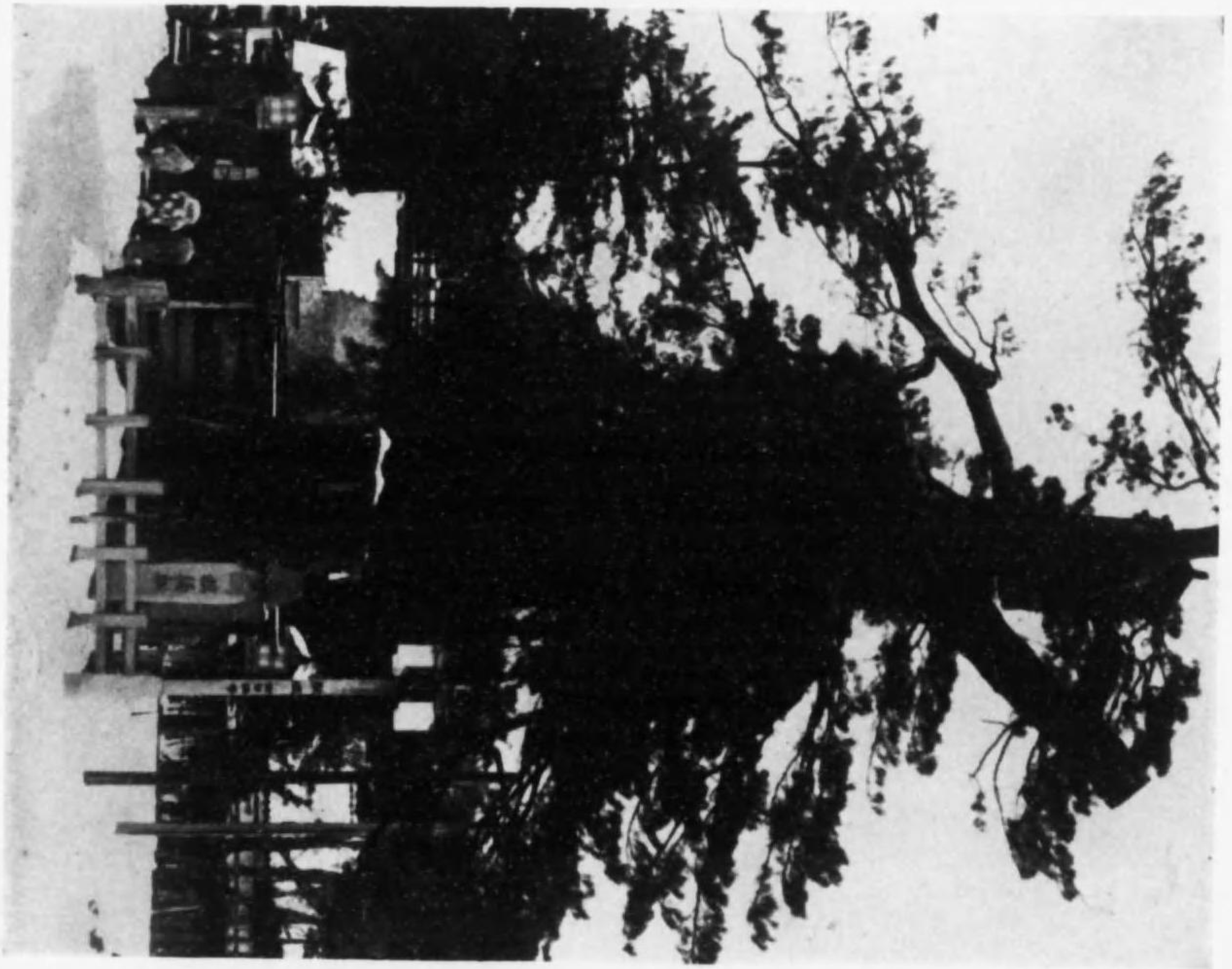
大鳥居

積雪の神域

積雪の神社

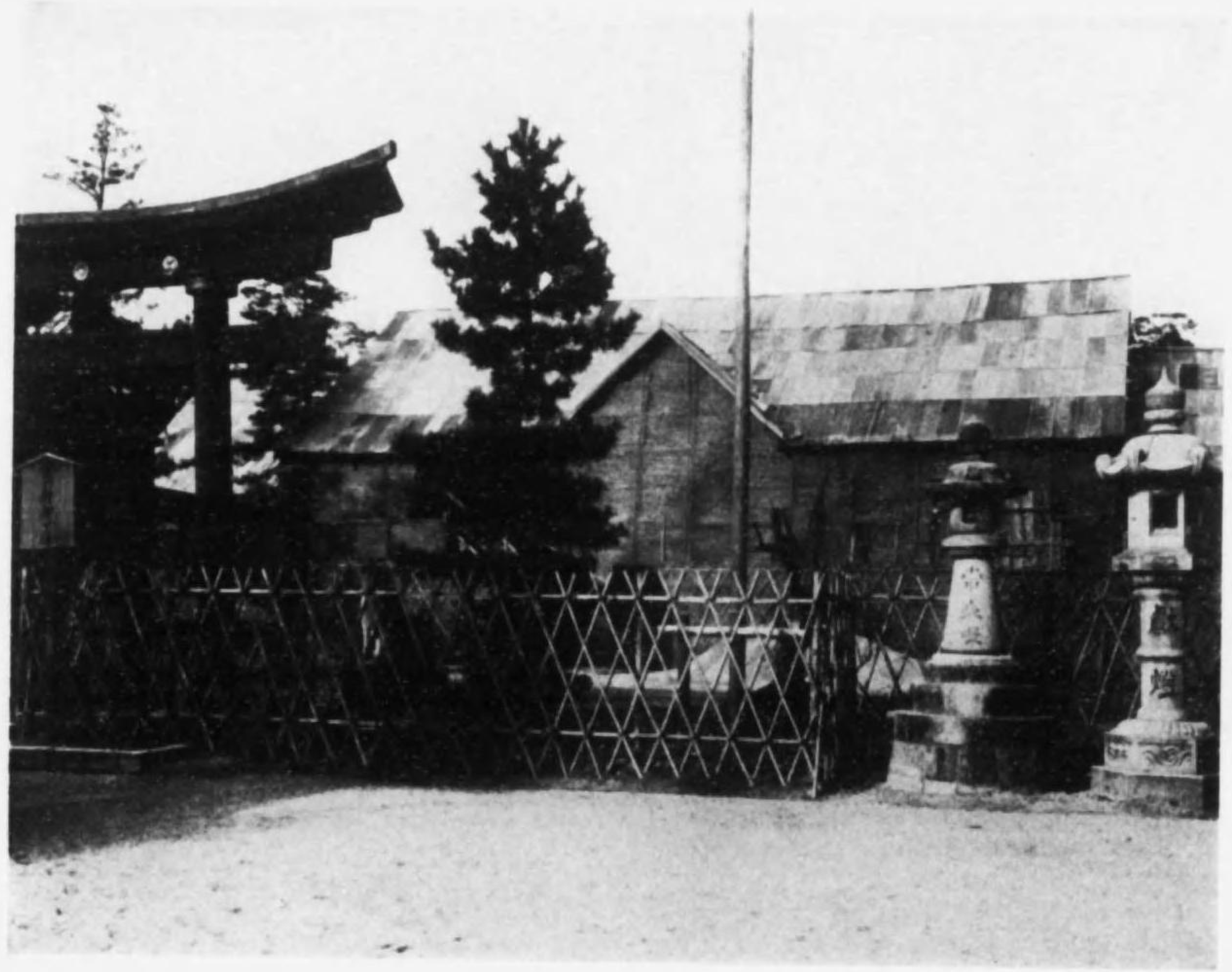
旗掲松

南朝哀史を物語るものにして、中島居前本殿正中線上に在り。延元元年大宮司氣比氏治公此の松に錦旗を掲げ勤王の兵を募る。而して集る數百の寡兵を以て尊良親王及皇太子恒良親王を奉じ金崎城に據り奮戰す。



中鳥居

高さ二十一尺餘、下部柱眞々九尺六寸餘、木造本漆朱塗り、寶永三年(二、三六六)若州小濱藩主酒井氏寄進建立、前方假屋は拜殿建築場。



中鳥居

貞享
三年（一六八六）若狭小濱藩主酒井忠直寄進建立ス、両方控柱ヲ附ス
高サ二丈一尺、柱間二丈八尺八寸、木造本朱塗ナリ、寛永

本殿

本宮(中央)伊奢沙別命、仲哀天皇、神功皇后奉齋、東殿宮(右)日本武命奉齋、總社宮(右奥)應神天皇奉齋、平殿宮(左奥)玉姫命奉齋、西殿宮(左)武内宿禰命奉齋。

以上五宮を以て本殿とし、祭神七座御同格なるは蓋し天下唯一なり。本殿は慶長十九年福井城主結城氏寄進するところ、桃山時代の遺構にして明治三十九年國寶に指定さる。

本殿

[illegible]

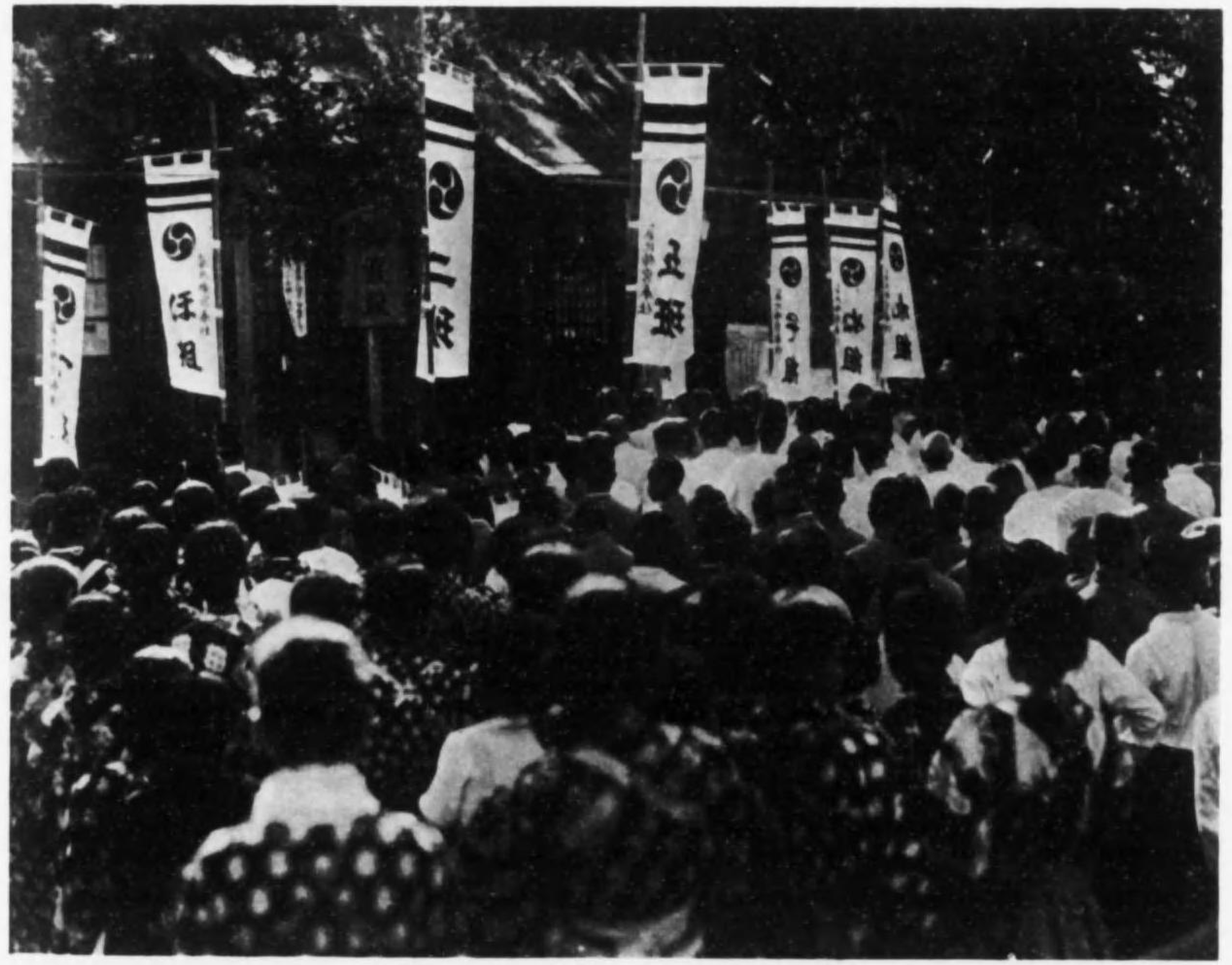
工事中の拜殿

桁行五間、梁行三間、左右翼廊付、本殿には祝詞舎を以て續く、
凡て檜皮葺單層丹及群青彩色を以て本年三月中に完成の豫定なり

工事中の拝殿

勤勞奉仕（一）

昨夏八月より四ケ月間數萬の老若男女御造營に勤勞奉仕す、奉仕員は組に、組は班に編成され、御神前に奉告、祈請の後一日七時間の奉仕を爲せり。



勤勞奉仕（二）

表參道はもと二間幅なりしを四間幅に擴張、土盛りをなし更に齋砂を以て清裝せり。

勤労奉仕（二）

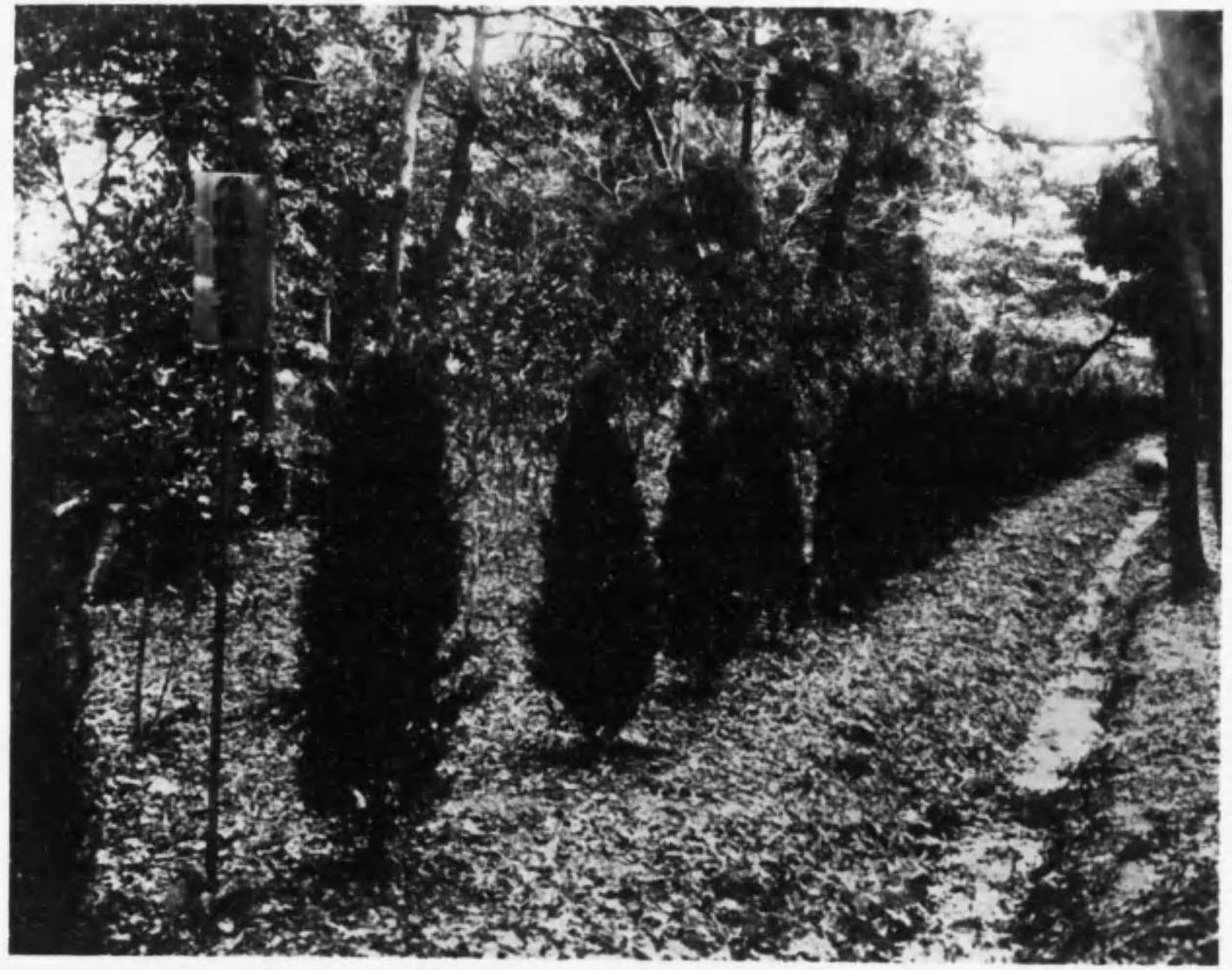
勤勞奉仕（三）

表參道及び神域用齋砂は、海上一里の常宮濱より採取の上船車と繼送し數日間二十五噸を搬入せり。之れ凡て奉仕作業による。

氣比神宮奉仕
氣比神宮奉仕
氣比神宮奉仕
氣比神宮奉仕

神苑獻木

勤勞奉仕により整美されたる境内地に、紀元二千六百年を記念し二千六百本の獻木を植栽し百年後の神苑の森嚴を計畫中なり。



韓苑穂木

敦賀港の特長

一、日本海に面する唯一の第一種重要港灣として、大陸へ連鎖の要衝に在りて、本邦北面の玄關たる重大使命を有せり。

一、崇神天皇の御宇朝鮮任那國皇子の來航に依り朝鮮との交通開かれ、神功皇后三韓出師當時の行幸地となり、德川時代には日本海沿岸諸國と中央方面との聯絡港として殷盛を極めたる等、古き輝かしき歴史を有せり。

一、港内面積廣濶、其の水面積四百三十一萬余坪を有し相當の水深在り、河口港の如き浚渫費は一切不要にして、暗礁、砂洲、漂砂の障害皆無なれば、大船、巨舶の運航自在、碇繫最も安全なり。

一、灣内の流速緩漫にして、潮位干滿の差最大二尺、冬季日本海の時化に直面せる時と雖ども、港内在泊船舶に被害を及ぼし、又は操船困難となり發着を中止せるが如きこと全く無し。

一、昭和七年三月第二期築港修築工事の完成に依り二千噸級乃至八千噸級船舶の接岸可能にして港内一萬噸級船舶の出入自在なり。

一、第三期擴張計畫案たる常宮灣修築の曉には、三萬噸級乃至五萬噸級船舶の接岸可能にして、是れ、北鮮三港の相對港として、日本海湖水化實現に對し不斷貢獻しつゝある、本港の特長とする所なり。

一、本邦唯一の歐亞連絡港にして、明治三十五年二月敦賀浦汐間航路開設せられて以來之に力を傾注すること三十有八年に及べり。

一、大正七年七月日本海横斷航路開設以來、朝鮮產活牛の移入港として、家畜檢疫所の設備を有し每年一萬數千頭の鮮牛を移入しつゝあり。

一、工場誘致に重要條件たる水量豐富にして、地下百尺より湧出する水質極めて良好なれば、一般飲用水に適するは勿論、船舶の飲料水及養鰻水として、良質の自然水を給水する港は、本邦諸港の内當港に及ぶ港無し。

一、燃料石炭の移入港として最好の條件を具備し、其の炭價も亦格安に利用し得べし、東

滿炭坑開發に伴ひ益々本港の使命又重さを加ふると信ず。一、萬古斧鉞を入れざる、豆滿江沿線並に東滿地方の森林開發に依る木材の移入港として、將來の利用旺盛となる情勢顯著なり。

一、工場地帶に面する、東洋紡績レーヨン工場に通ずる市設運河沿線の利用に依り、原料並に燃料の輸送に特段の便宜存せり。

一、工場設置に適する土地の廣袤三百餘萬坪有り、地價低廉にして種々利便の提供と特權を付與せらる

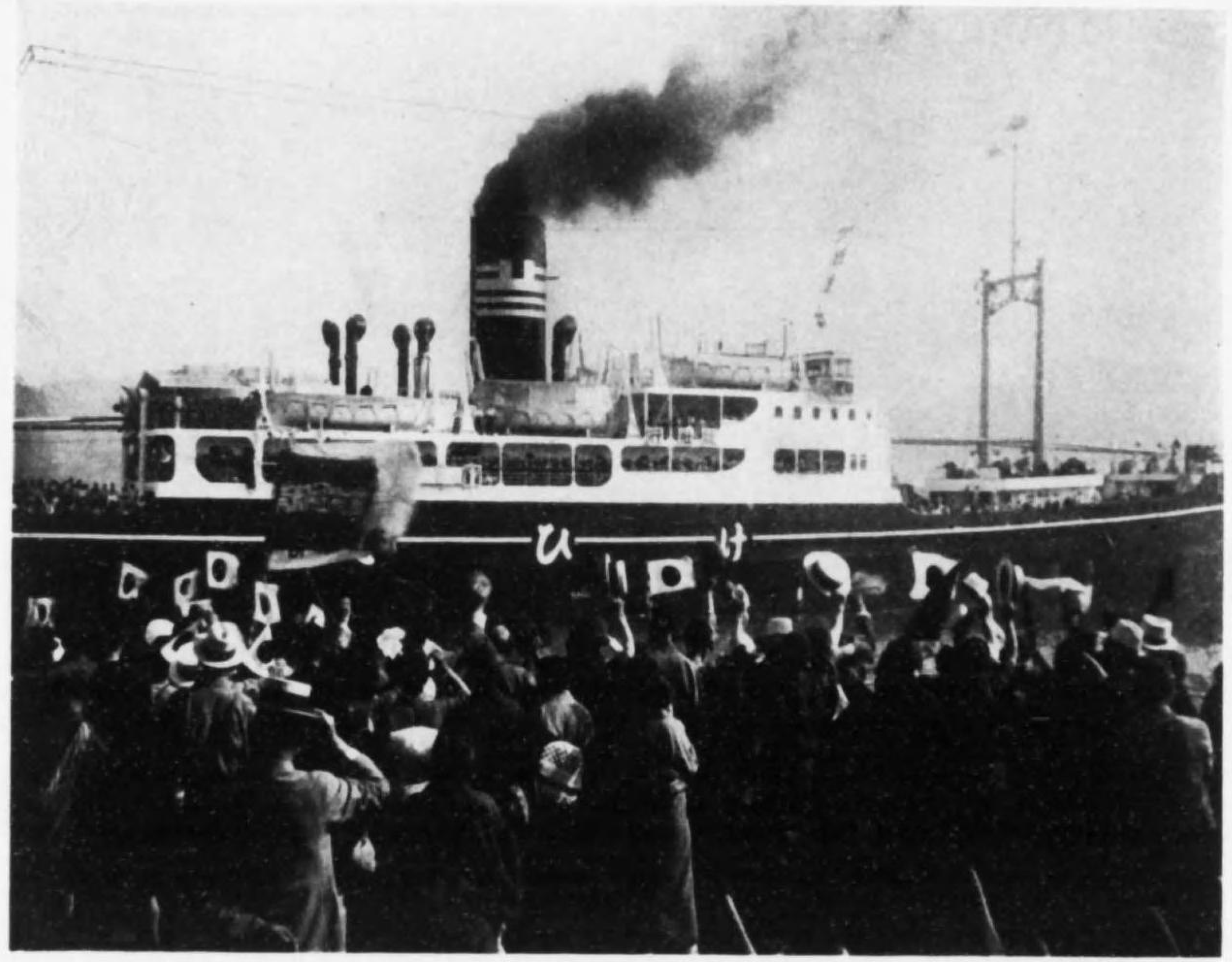
一、中京名古屋市に通ずる產業道路、謂ゆる名敦道路改修完了の曉には、名古屋よりの出貨は直接岸壁に輸送せらるゝに便宜となり、一面米原敦賀間鐵道複線工事完了と相俟つて、之が輸送力增大し、名古屋、阪神との連絡密接となる特質を有せり。

一、海濱に面積二十四萬坪を抱擁する、本邦有數の自然松林「名勝氣比の松原」在り、外遊客は勿論市民の健康地存せり。

一、官幣大社氣比神宮、建武中興に有名なる金ケ崎宮、幕皇志士武田耕雲齋外數百名の英靈眠る墳墓の地等、名勝舊蹟に富み、子弟の教育に最好適地なり。

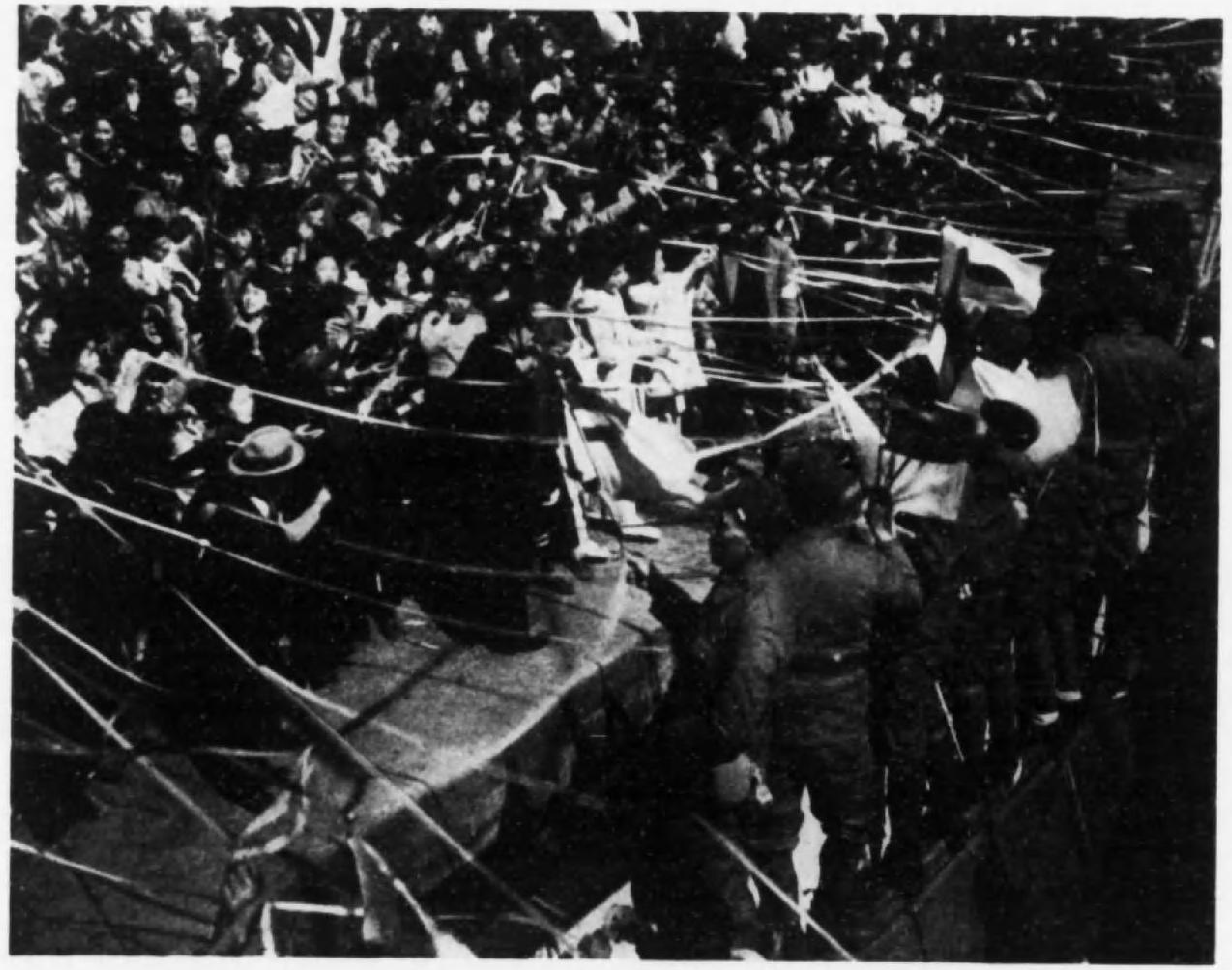
亞歐連絡船　氣比丸　（一）

興亞の拓士を乘せて出帆の景



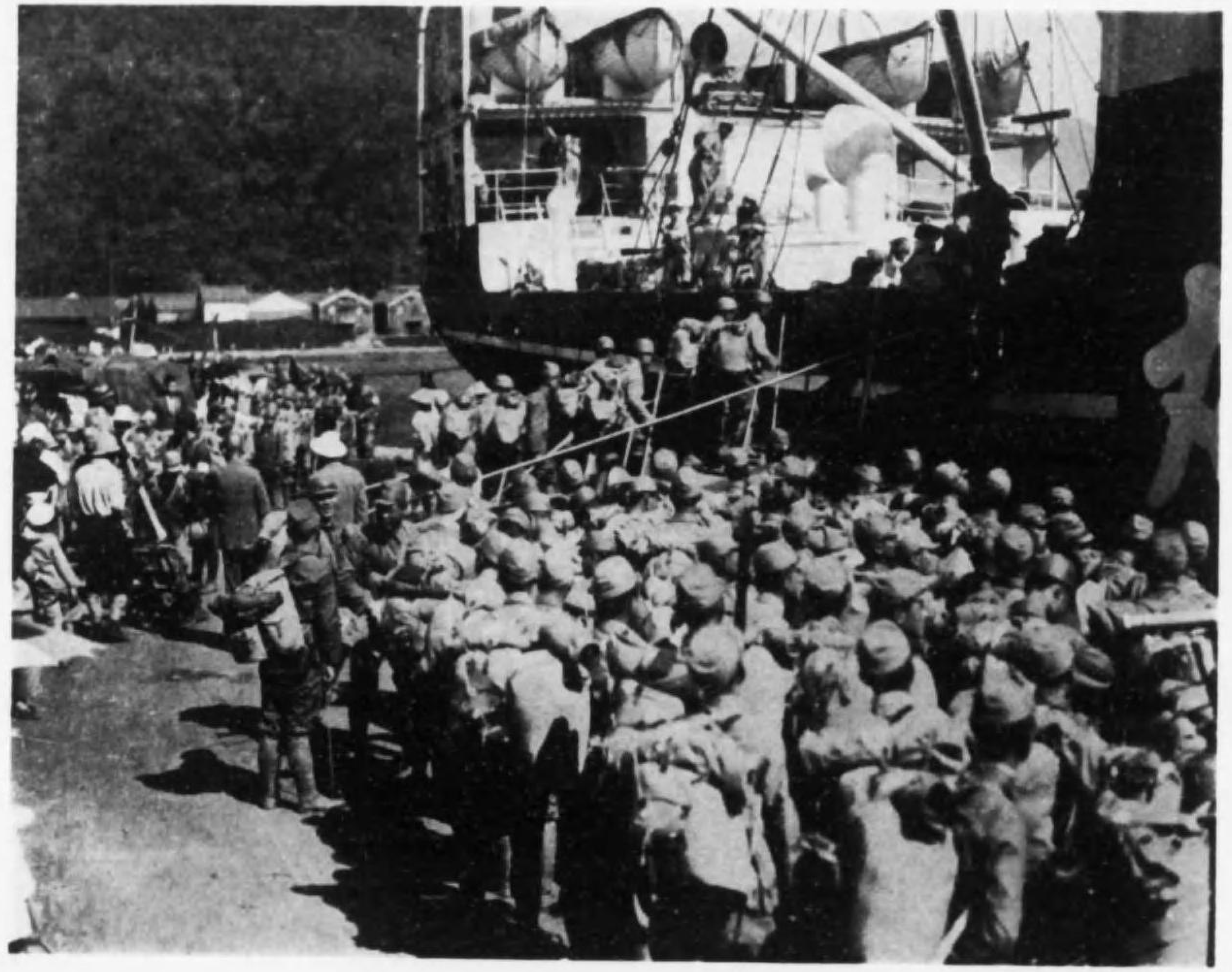
亞歐連絡船 氣比丸 (二)

滿洲開拓民歡送の景



亞歐連絡船　氣比丸　（三）

滿洲開拓青少年義勇軍乗船の景



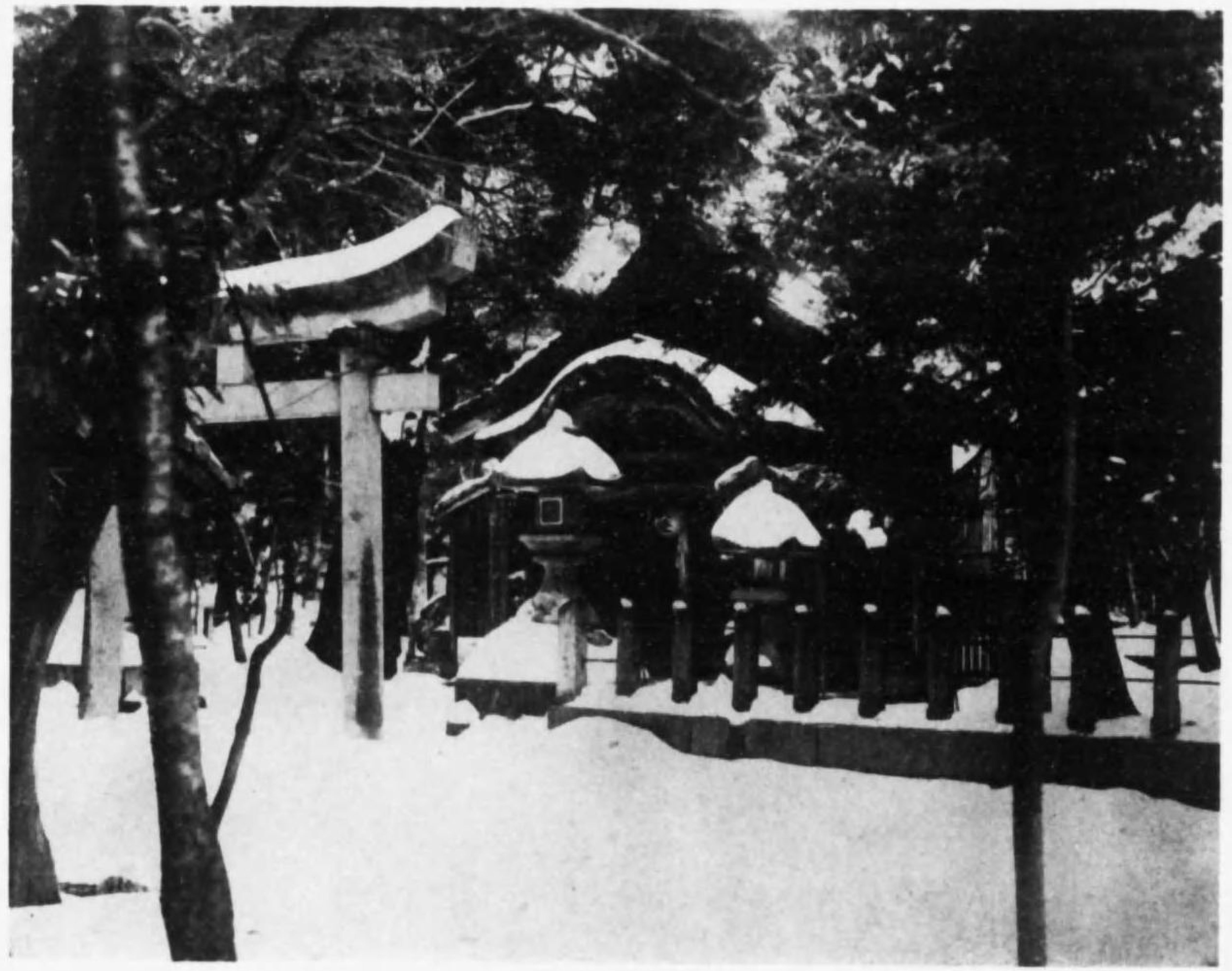
亞歐運輸船　東比丸

金崎奮戰之古圖

本圖は後世大平記により畫く所なり、延元二年大宮司氣比氏治公父子以下多數殉忠護國の神となる。當時殉難將士は現に官幣中社金崎宮攝社絹掛神社に祀らる。

攝社　角鹿神社

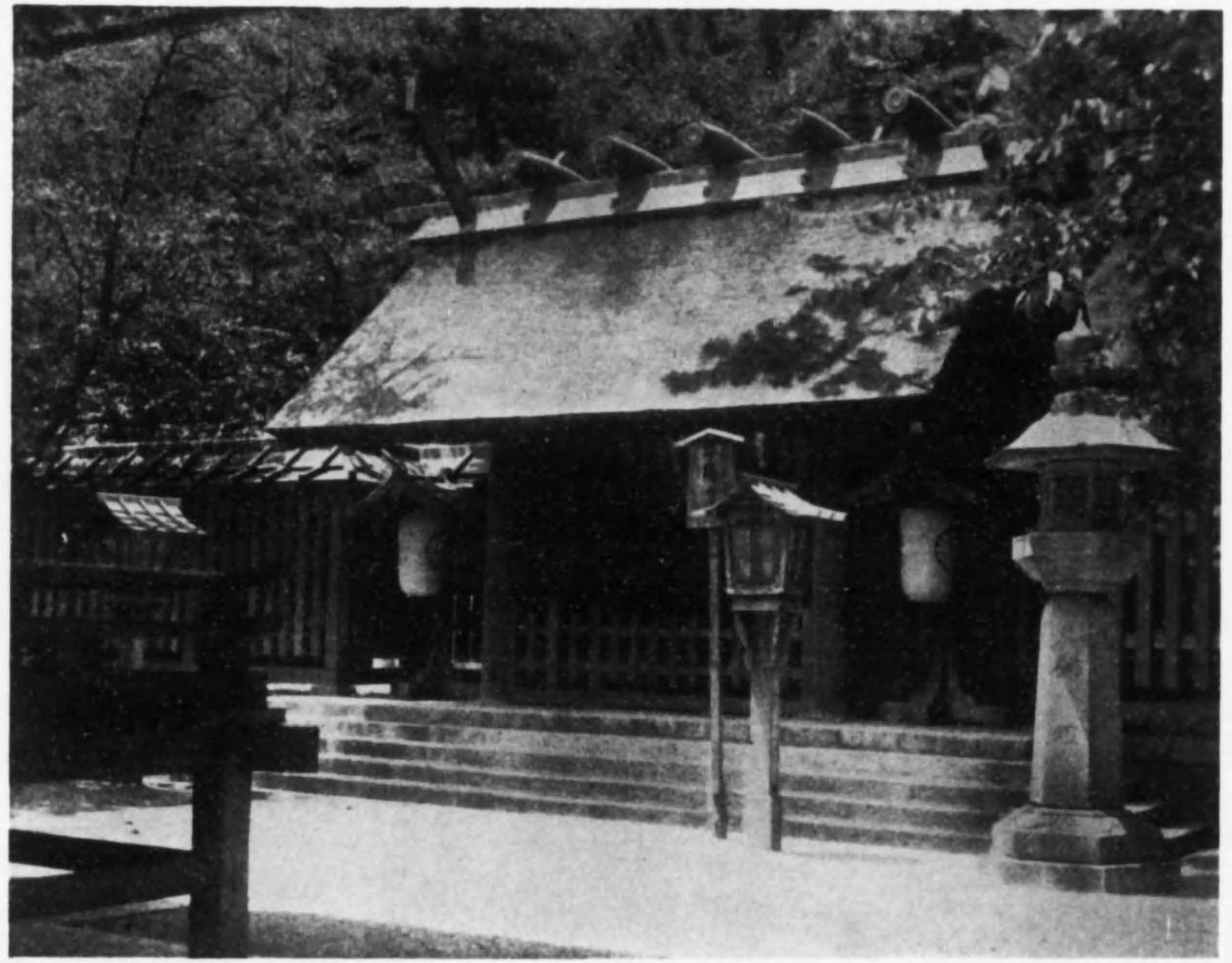
祭神都怒我阿羅斯等(ツヌガアラシト)命は任那(ミマナ)の王子にして敦賀地方開發の功勞神なり、崇神天皇末期に來朝笥飯(敦賀)港に上陸し朝貢の使命を果して、後勅により笥飯の政所の長官兼氣比神宮大宮司となると傳ふ。日本紀によると笥飯の地名は此命の御名に因み角鹿(ツノガ)と改められ更に養老年間敦賀(ツルガ)と改字す。



官幣中社金ケ崎宮

南朝の史蹟

金ケ崎城趾に在り、尊良、恒良兩親王を祀る。附近一帶名所舊蹟に富み眺望又雄大なり。



官幣中社金ケ崎宮

縣社　常宮神社

郊外常宮の海濱に在り、天八百萬比咩神、仲哀天皇、神功皇后を祀る。世に安產の神様として知らる。

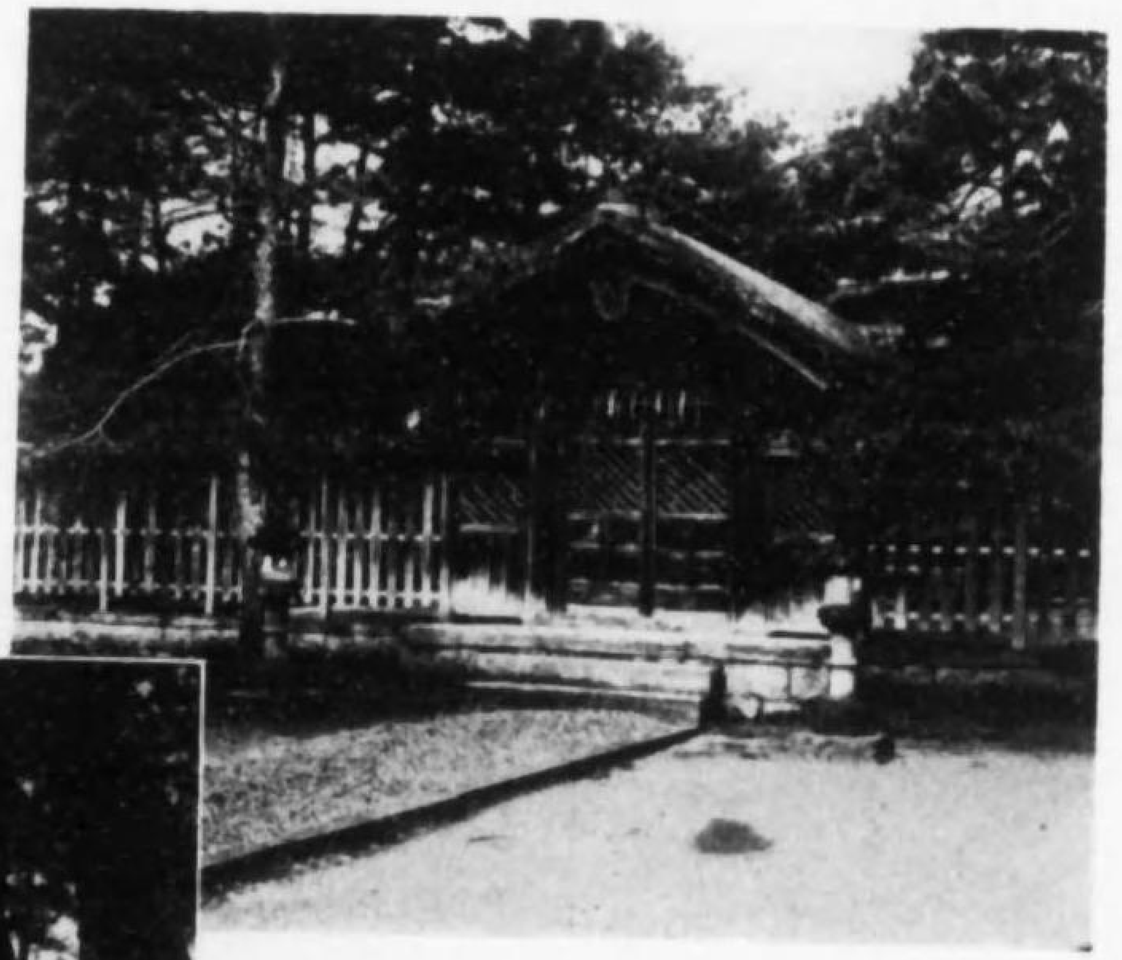
敦賀 常宮神社

松原神社と水戸烈士の墓

勤王の志士、武田伊賀守耕雲齋以下三百五十三士を祀る。

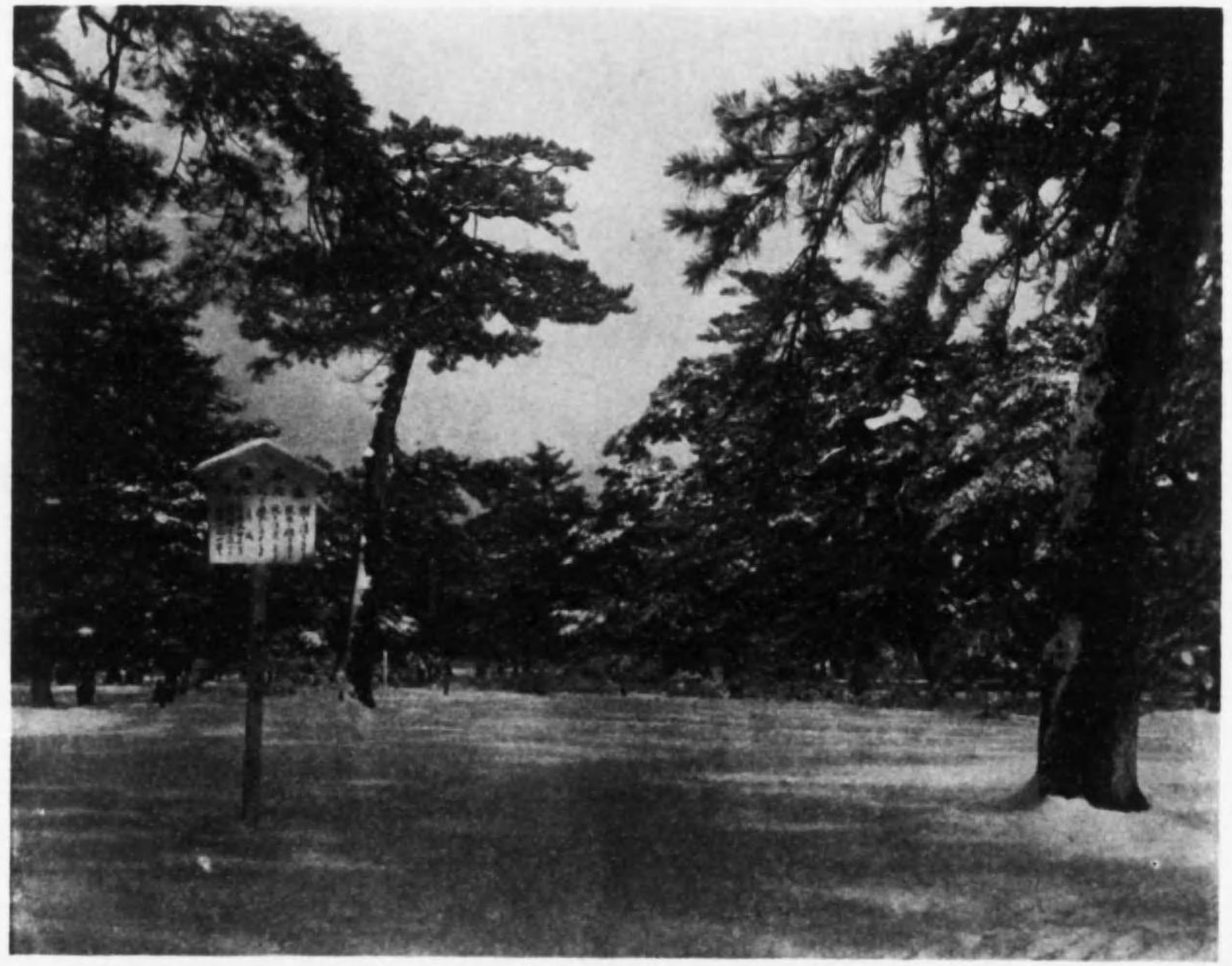
討つもはた討たるゝもはた哀れなり
同じ日本のみだれと思へば

（武田耕雲齋辭世）



名勝氣比の松原

白砂青松風光明媚、文部大臣指定の名勝にして廿五萬坪の大公園なり。



敦賀氣比の松原

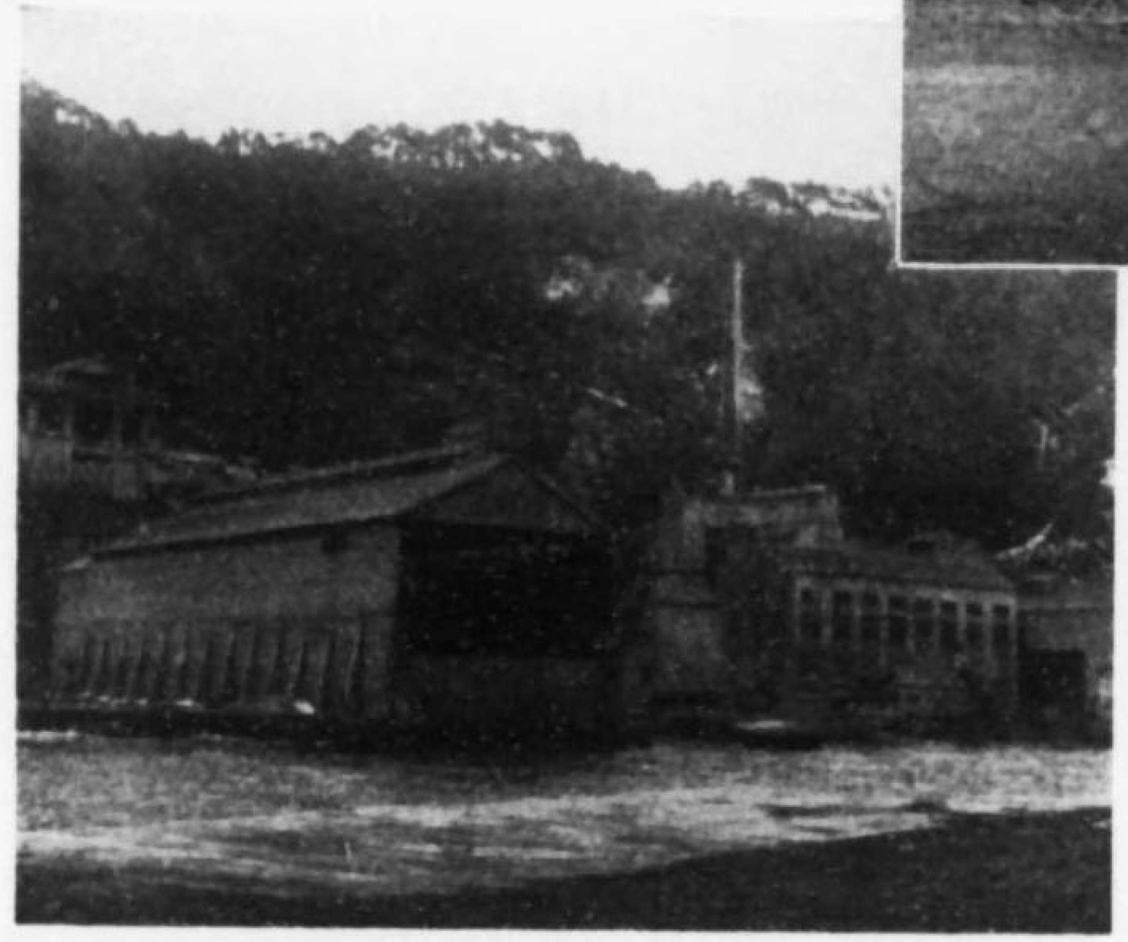
敦賀市廳舎

敦賀市廳舍

敦賀商工會議所

敦賀商工會議所

東洋紡績敦賀工場
敦賀セメント工場



氣比神宮、日本海、大陸

興亞特急

北日本汽船株式會社の敦賀、淸津、浦鹽間を運航する新造船氣比丸は敦賀の官幣大社氣比神宮に因んでつけた船名である。先ごろの大阪政治經濟研究會の滿支視察の出發は、道を北陸の敦賀港にとり、まづこの氣比の神宮に詣で、端なくも遠き上つ代の昔、畏くも仲哀天皇、神功皇后の三韓征伐の御事蹟を、大神の神鎭まります神域に由緒深き角鹿（敦賀の舊名）の港に追憶し奉る機會を得た。當日、東道の任に當つた靑年市長、若林敦賀市長は、國防服に日燒の顏を絕えずにこ〳〵と、若葉の梢に映ゆる廣前に立つて宮の御由緖を何かと一行に說明してくれた。そも〳〵この氣比神宮と申すは仲哀天皇、神功皇后、應神天皇をはじめ奉り、仲哀天皇の御父、日本武尊、神功皇后の御妹玉姬命ならびに武內宿禰の六柱とほかにいま一柱伊奢沙別命と申す御神を合せ、七柱の大神を齋き奉り、延喜以來七柱とも揃つて官幣大社の奉幣に預らせらるゝところの、他に類ひなき大宮である。

日本武尊をはじめ奉り、仲哀天皇、神功皇后、應神天皇、武內宿禰の御偉績は、千古史上に燦として輝くところであり、當時國內には、まだ全く皇威に服さなかつた、熊襲や東夷の御征討に御盡瘁あらせられつゝ、さらにまたかれら匪賊の背後にあつて、陰に陽にこれを操つて來た三韓經略に終始御心を傾けさせられたといふことは、今日一層われ〳〵國民の胸奧に深い感激を覺えしむるものである。

また伊奢沙別命と申すは、笥飯大神または御食津大神とも稱へ奉り、神代の昔から早くもこの地に鎭座ましまし北陸地方開拓の任に當らせられた御神と拜察し奉る。しかして神宮境內本殿東方の攝社角鹿神社の祭神、角鹿國造の祖、建功狹日命は朝鮮より渡來せる王子なりといひ傳へられ、また敦賀の地名は角鹿なる朝鮮語の轉化であらうとのことである。

かやうに、氣比神宮に神鎭まります神の御事績をそれからそれへと追憶し奉るとき、上つ代における大陸と日本國との關係交涉の經緯、內治外交の經綸など今日の時局に照らして一しは思ひを深めしむるものが多い。それにつけても、かゝる千古の昔から萬古の末ま

で、無窮につゞく皇國の歷史そのものこそ、萬古不易の國體であり、萬世一系の大君の下に生々發展する民族の姿である、こゝにわれ〳〵は無限の力と不滅の精神を感得することができる。

また敦賀の港は、上代大陸交通の要衝として、渤海國の使節を接見せし齊景寮が氣比松原の海濱に設けられてあつたといふことである。しかして今後滿蒙開拓民が二十ケ年間に百萬戸、五百萬人の大量進出とともに、大陸開發の戰士、青少年義勇軍も毎年多數に送り出さるべく、これに加へて滿洲國が先ごろ決定した國境建設、北邊振興事業の面に要求せらるる商工移民の大量が、この港や新潟港などから日本海を直航して大陸めざし多角的民族的進出を遂ぐることを思うて、肇國の大理想と不滅の國體に生くるわが大和民族の幸福を泌々と感ずるのである。

これと同時に、一切の國力は、決してわれ〳〵現代人のみの力でなく、悠久の昔から民族の魂に育くまれ、血に傳へられた傳統の力であることを知るとともにさらに、これら過去から現在への傳統の力のうへに、天壤無窮の將來に向つて生々發展を期する過去未來に通ずる民族理念の力であることを感知せらるゝ。

筆者は和歌山縣出身、栗本鐵工所社長
大阪政治經濟研究會常任委員長
栗本勇之助氏
（昭和一四、八、一六　大朝夕刊掲載）

（敦賀憲兵分隊檢閲濟）

昭和十五年三月十一日印刷
昭和十五年三月十五日發行

發行所　敦賀市役所內
官幣大社氣比神宮
遷座祭慶祝奉賛會

印刷所　大阪市南區安堂寺橋通一丁目
濱田印刷所

終